

一般財団法人日本エスペラント協会 (JEI)

2022年度事業報告

【0】基本方針・重点課題と成果

1. コロナ禍により、国際語エスペラントの普及発展をめざす本会の事業においても、従来のあり方は大きな変革を迫られたが、オンラインの活用も積極的にとらえ、新たな挑戦を歓迎する「柔軟さ」や「話しやすさ」「助け合い」を基調とする組織作りと会員の拡大を目指した。
2. エスペラント会館(1978年建築)の将来を見据え、「エスペラント会館検討委員会」(2021年発足)を中心に、改修、建て替え、移転等について具体案を作成し、比較検討した。エスペラント会館の精密耐震診断を行った。
3. 多言語・多文化共生時代において、少数言語をはじめ多様な言語の尊重が重要視される今、「橋渡し言語」としてのエスペラントの意義を再確認し、エスペラント界外の団体・個人との協働を推し進めた。
4. 各部や各委員会が活性化するように協力者を募る呼びかけを強め、各部が横断的に協力できるよう理事、協議員による一層の積極的働きかけを行った結果、成果が出た。

【1】エスペラント普及事業(担当:普及推進部)

【1.1】基本方針と成果

1. 国内外のエスペラント団体と連携し、エスペラントの存在意義、魅力を共有し、さらに広報し、エスペラントを普及する活動を行った。
2. 当会会員との連携を強化し、エスペラント関係者やその他の個人、団体とも協働の輪を広げ運動の発展を図った。
3. 各部との横断的な協力によって、エスペラント広報事業をした。

【1.2】エスペラント普及推進事業

1. 国内のエスペラント運動の現状を把握し活性化を図った。
 - (1) 『La Revuo Orienta／エスペラント』(RO誌)2022年4月号に発表した「2021年エスペラント運動年鑑」の情報を生かし、活用した。
 - (2) 広域、地域、専門、学校関連など、各種エスペラント団体の、2022年の活動に関する情報を収集し、RO誌2023年4月号に「2022年エスペラント運動年鑑」として発表し、各エスペラント団体の間の情報共有をした。
2. 各種エスペラント団体と協働し、エスペラント団体の活性化に寄与した。
 - (1) 地方エスペラント連盟の大会などに理事・協議員が出席したり、各地のエスペラント運動について意見交換を行うように努めた。
 - (2) 「エスペラント運動年鑑」や「エスペラント会懇談会」の連絡網(メーリングリストなど)での情報の共有は継続したが、整備は進まなかった。
3. 会員の拡大・定着に努めた。
 - (1) 2023年3月31日現在の会員数は913で、個人会員が862(53減)、団体会員が51(1減)。会員の拡大、定着のための方策を実施した。
 - (2) 青年エスペラント企画支援金を活用して、青年層のエスペラント活動を支援した(1件)。
 - (3) 青年層にエスペラント活動の場を提供する団体にも青年エスペラント企画支援金の活用を促したが、

実績はなかった。

4. エスペラント運動に功績があった個人として、山川修一氏に小坂賞を授与した。

【1.3】エスペラント広報事業

1. 本会ウェブサイトにおいて、エスペラントに関する広範な情報を、一般向けによりわかりやすく提供できるよう内容の充実を図った。
2. インターネットに関しては、本会ウェブサイト以外にもSNS、動画サイト等を活用し、より広い層への広報活動を行った。
3. 外部向けのニュースリリース「エスペラントの今」を3回発行した。2022年6月「ウクライナ侵攻が続く中、現地からの声に耳を傾ける」(25号)、2022年12月「FIFA ワールドカップ カタール 2022 の公式球にエスペラント語」(26号)、「エスペラントの記念日いろいろ」(27号)。
4. エスペラント外部の団体等との接触の機会を逃さず、先方行事や先方企画への参加参画により、交流・相互協力・協働を推進した。
5. 第109回日本エスペラント大会(八王子市)を機会とした、広報活動を行った。
6. 世界的な「エスペラントの日」(『第一書』の発表された7月26日)や、日本の「エスペラントの日」(6月12日)を機会とした、広報活動を行った。
7. 世界エスペラント協会(UEA)とも協力し、広報活動を行った。
 1. ユネスコ「国際母語の日」の日本語版広報資料の作成を行うとともに、アイヌ語、沖縄語関係者と協働をした。

【2】エスペラントを用いた国際交流事業(担当:国際部)

【2.1】基本方針と成果

1. エスペラントによる国際交流事業を、特に世界エスペラント協会(Universala Esperanto-Asocio=UEA)の日本における国別代表組織として推進した。UEAのアジア・オセアニア委員会(Azia-Oceania Komisiono=KAOEM)、日本のUEA委員、UEA-delegito(都市代表者)と協働した。
2. 日本のエスペランティストが行うエスペラントによる国際交流事業支援はなかった。
3. 外国のエスペランティストに第109回日本エスペラント大会への参加を促した。

【2.2】国際交流事業

1. 2022年度に開催される国内外のエスペラントによる国際交流行事への参加・協力を呼びかけた。
 - (1) 青年層に「青年エスペランティスト国際行動支援金」制度を活用しての参加を呼びかけ、第10回アジア・オセアニアエスペラント大会(韓国の釜山、11月3日～6日)に参加の1名に供与した。
 - (2) 第107回世界エスペラント大会(カナダのモントリオール、8月6日～13日)では、本会のUEA委員が委員会に出席した。同大会の Movada Foiro に出展した。
 - (3) 第78回国際青年エスペラント大会(オランダのウェステルペーアス、8月20日～27日)には日本からの参加は無かった。
 - (4) 第10回アジア・オセアニアエスペラント大会(韓国の釜山、11月3日～6日)への参加・協力を呼びかけた。同大会の Movada Foiro に出展した。
 - (5) 第40回東アジア青年エスペラントセミナー(中国青年協会・棗荘学院共催、12月28日～29日)はネット開催となった。参加・協力を呼びかけた。
 - (6) 日本のエスペランティストへの支援として、国際文通サービスを継続し、8件を仲介した。

- (7) KAOEMの機関誌*Esperanto en Azio kaj Oceanio*の編集・印刷・発送(3回)の支援を行うと共に、購読(UEAアジア・オセアニア基金への寄付)を呼びかけた。

【3】エスペラント研究教育事業(担当:研究教育部)

【3.1】基本方針と成果

各種事業で継続してインターネットの活用を進めた。また、外国語教育や国際交流活動におけるエスペラントの有用性をさまざまな機会をとらえ社会に提示していくよう試みた。

1. 教育部門は、オンライン会議システムを用いて、オンラインセミナーを開催して地域を問わずエスペラント学習者の語学力向上の支援に努めた。
2. 研究部門は、日本エスペラント大会の場に加え、それ以外の場でも研究成果発表場所を提供し、学際的・多面的視野からエスペラント研究の発展と増強を図った。
3. ハヶ岳エスペラント館については新型コロナウイルス感染症の動向を考慮して適宜開館状況を見直しつつ、本会の研修施設として活用を行った。

【3.2】研究教育事業

1. エスペラントのオンラインでの学習や学習支援を充実させていくために下記の2つのコンテンツを活用し、エスペラントに興味を持つ人や学習者が本会を活用できる場を作った。
 - (1) ウェブ教材「ドリル式エスペラント入門」の活用を推進し、学習支援事業を継続した。
 - (2) 遠隔地からでも参加できるオンラインセミナーを2023年2月と3月の2回「詩に親しもう」をテーマに開催した。第1回27名参加、第2回27名参加
2. 学力検定試験を、年2回(日本エスペラント大会時、3月)定期実施した(大会時12名、3月16名が受験)。随時開催への応募はなかった。新検定基準を公表し、特に4級、3級については気軽に受験できるよう広報に努めた。
3. UEAの主催するKER試験(ヨーロッパ言語共通参照枠CEFR準拠のエスペラント試験)の実施に協力した(東京会場で5名)。
4. 日本エスペラント大会で研究発表会を実施し、4件の発表があった。文芸コンクールを実施し、エスペラント原作部門に4点、翻訳部門に1点の応募があり、入選作2点を表彰した。
5. 研究発表会は、オンライン形式でも行えるよう計画したが、オンラインでの発表はなかった。

【3.3】ハヶ岳エスペラント館における事業

1. 新型コロナウイルス感染症対策を実施して、安心・安全な利用ができるようにした。延べ宿泊数は2020。
2. 快適な宿泊研修活動ができるよう、設備更新・館の保全を図った。
3. エスペラント漬け合宿(NEK)等の研修は、コロナ禍のため実施しなかった。

【4】エスペラント雑誌の刊行事業(担当:編集部)

【4.1】基本方針と成果

1. 雑誌『エスペラント／La Revuo Orienta』(RO誌)を年11回発行し、エスペラントの普及発展に資した。

【4.2】雑誌刊行事業

1. RO誌を毎月(8-9月は合併号)刊行した(電子版、音声版を含めて)。発行部数は1000部。
2. 他部門と連携し、特集号を発行した:4月特集(2021年エスペラント運動年鑑)、2023年1月号特集(第109回日本エスペラント大会報告書)。
3. 編集会議を、拡大編集会議1回を含めて、年11回、オンラインで実施した。

【5】図書等刊行・頒布事業(担当:出版部)

【5.1】基本方針と成果

1. エスペラントの学習、エスペラントに関する文化の発展、エスペラント普及に資する図書出版活動を行った。
2. 内外のエスペラント図書を仕入れて販売した。また国外で発行されたエスペラント雑誌購読を取り次いだ。

【5.2】図書刊行事業

1. 出版物として下記を検討した。またその他、具体的な出版物の案についても検討した。
 - (1) 本会刊行図書の電子出版を検討した。
 - (2) 阪直氏ホームページ『週刊やさしい作文』の出版の可否を継続して検討した。
2. 今後の出版物の準備、計画を行った。
 - (1) 『日本語エスペラント辞典』(宮本正男編)の全面改訂作業を新日本語エスペラント辞典編集委員会のもと進めた。刊行時期の明確化には至らなかった。

【5.3】図書頒布事業

1. エスペラント書籍の販売、取り次ぎを行った。
2. 「エスペラント読書相撲」、読書会の推奨、ウェブを活用した宣伝などを通じて、エスペラント図書の拡販に努めた。
3. 「日本エスペラント協会在庫図書カタログ」を更新する作業を進めた。

【6】エスペラント大会主催事業(担当:大会組織部)

【6.1】基本方針と成果

1. 2022年の日本エスペラント大会を、共同主催団体と共に準備を行い、開催した。
2. 2023年以降の日本エスペラント大会について、開催方針・開催方法・開催地等を検討し、2023年の日本エスペラント大会の開催準備に取り組んだ。

【6.2】日本エスペラント大会主催事業

1. 第109回日本エスペラント大会を下記の通り開催した。
 - (1) 開催日:2022年9月23、24、25日(金祝・土・日)
 - (2) 会場:八王子学園都市センター(東京都八王子市)
 - (3) 共同主催団体:日本エスペラント大会八王子委員会

- (4) 開催方法: 現地参加とオンライン参加のハイブリッド方式
 - (5) 大会テーマ: コロナ禍後の新しいコミュニケーション時代とエスペラント
 - (6) 参加者: 397人(登録数。うち外国からの無料参加は67人)。他に地元から38人が見学。
 - (7) 初めて実参加とオンライン参加の料金を分けて設定した。
 - (8) ハイブリッド開催実現のため「オンライン応援班」を組織して対応したほか、ホールのZoom配信については、地元の東京工科大学の協力を得た。
2. 第110回日本エスペラント大会を下記の通り開催することを決定し、準備を開始した。
 - (1) 開催日: 2023年10月21、22日(土・日)
 - (2) 主会場: 川崎市総合自治会館
 - (3) 協力団体: 川崎エスペラント会
 - (4) 開催方法: 現地参加とオンライン参加のハイブリッド方式
 - (5) 従来の開催地エスペラント会を主体とした現地実行委員会(LKK)方式を改めたり、会期を2日に短縮したりなど、従来の日本大会のあり方を変えていく取り組みを行った。これは、2025年以降の日本エスペラント大会開催の参考とする予定である。
 3. 2024年の第111回日本エスペラント大会は、第3回日韓共同開催大会として韓国で開催されることが確定した。

【7】その他事業及び法人の管理(担当: 総務部、財務部、ウェブ管理部)

【7.1】基本方針と成果

1. 本会のエスペラント事業の核となる会員の活動を支援し、各事業部門とも連携して、事業が円滑に行われるよう支援した。
2. 本会が保有する図書・視聴覚資料等の保存について、デジタル化を含めた方策の検討を始める予定だったが、着手できなかった。
3. 今後起こり得る様々な状況に備え、本会の管理・運営方法を見直し改善をはかった。特に、新任の役員等に対しては運営上のルールや方針を記したマニュアルを整備し、支援に努めた。

【7.2】総務部担当事業

1. 総務部の職務(庶務、会員管理、エスペラント会館管理活用、役員支援など)を事務局及び関連委員会(選挙管理委員会、小坂賞委員会)の協力を得て、着実に実行した。
2. 事務局の課題には、財務部とともに事務局会議を年6回開き対応した。また、事務局職員と理事長の個別面談を実施した。
3. 図書館整備事業のうち、データベース作成作業は進まなかったが、図書館の整理作業は継続して行った。
4. 図書販売促進のため、行事を利用した機会の他、ウェブの活用を強めた。
5. エスペラント会館5階倉庫にある不良在庫本や委託販売本の現状を確認し、出版部の協力のもと「古本セール」なども行い、整理を進めた。
6. エスペラント会館の精密耐震診断を行い、必要な耐震補強方法を検討した。
7. 本会事業の継承のため、および理事・協議員の資料へのアクセスを容易にするための電子情報保管庫の利用を促進し、支援した。
8. 会議や行事はできる限りリモートでできるよう、体制・設備を整え支援した。

9. 緊急時対応マニュアルについては次年度の完成を目指し、未完成部分に関して討議した。

【7.3】財務部担当事項

1. 公益目的支出計画および長期予算計画と整合を取りつつ、中長期的な視野の下に堅実な収支運営に努めた。

【7.4】ウェブ管理部担当事項

1. 本会ウェブサイトが、本会事業の広報はもとより、広く利用者にエスペラントに関する有用な情報を提供できるよう、維持管理を実施した。また、点字ファイル保管庫のコンテンツの充実等、本会ウェブサイトの利便性向上のために必要な措置を実施した。
2. SNS、動画サイト等によるエスペラントの広報を支援した。具体的には、SNSに詳しい会員有志による「SNS運用班」を立ち上げ、特にTwitterについて運用方法改善の検討を開始した。
3. 会員ページ(本会会員がパスワード付でアクセスするページ)で、会員に有用な情報提供の充実を図った。具体的には、「日エス現代用語集」(山川修一編)の電子版を掲載し、会員限定で活用できるようにした。
4. 本会のあり方に対応したウェブ共同運営体制を構築するための検討を開始した。また、新たなクラウドストレージの検討なども含め、本会業務の円滑な遂行に有益な情報技術利用を支援した。具体的には、クラウド型業務システム「キントーン」の非営利団体向けライセンスの調査検討、そして試用版の導入検討を実施した。
5. 「本格的にエスペラントを学ぶほどではないが、雑学・語学教養として触れてみたい」というライト層向けに、普及推進部、研究教育部と協力してコンテンツの維持・拡充を行った。具体的には、2020年開設の広報サイト「Saluton!～エスペラントとは～」の来年度リニューアルに向けて、ライト層向けのコンテンツをどう改良していくか、部内での議論を開始した。
6. 日本大会ウェブサイトの作成と維持管理を行った。
7. ウェブサイト全面リニューアルの計画策定を開始した。
8. 関係部局と協議をして、電子書籍の発行への対応の検討を開始した。

以上